

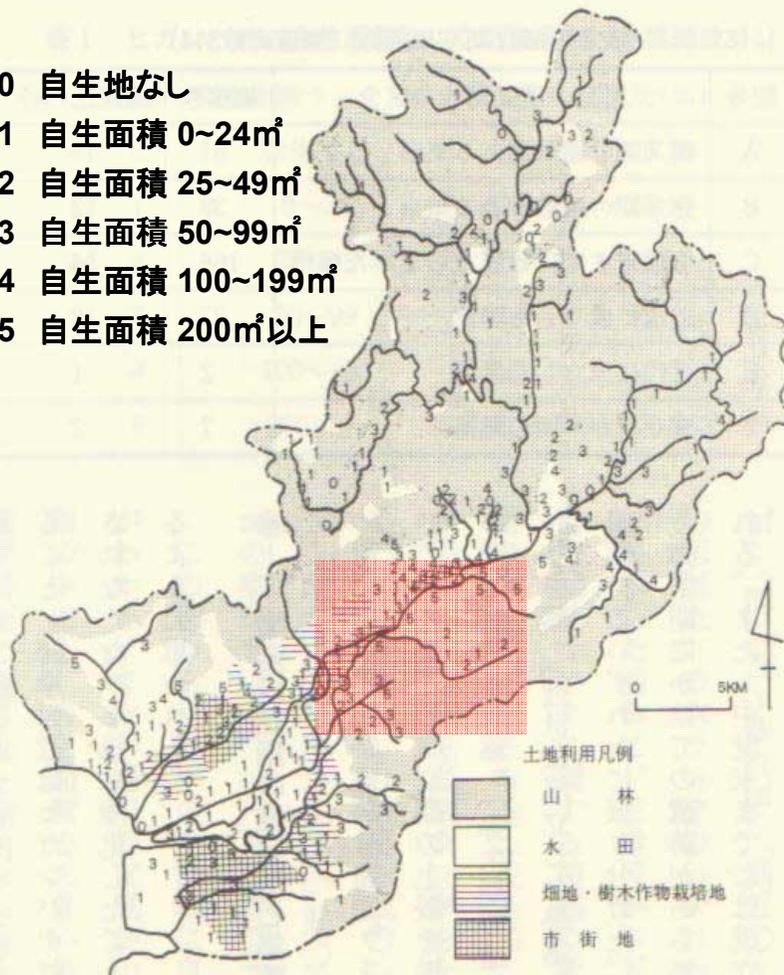
表1 ヒガンバナの自生面積ランク別集落数(集落総数314)

記号	自生面積ランク(m ²)	集落数	構成比(%)
0	自生なし	20	6
1	0~24	152	48
2	25~49	56	18
3	50~99	54	17
4	100~199	20	6
5	200以上	12	4

表2 成立期別集落数(集落総数314)

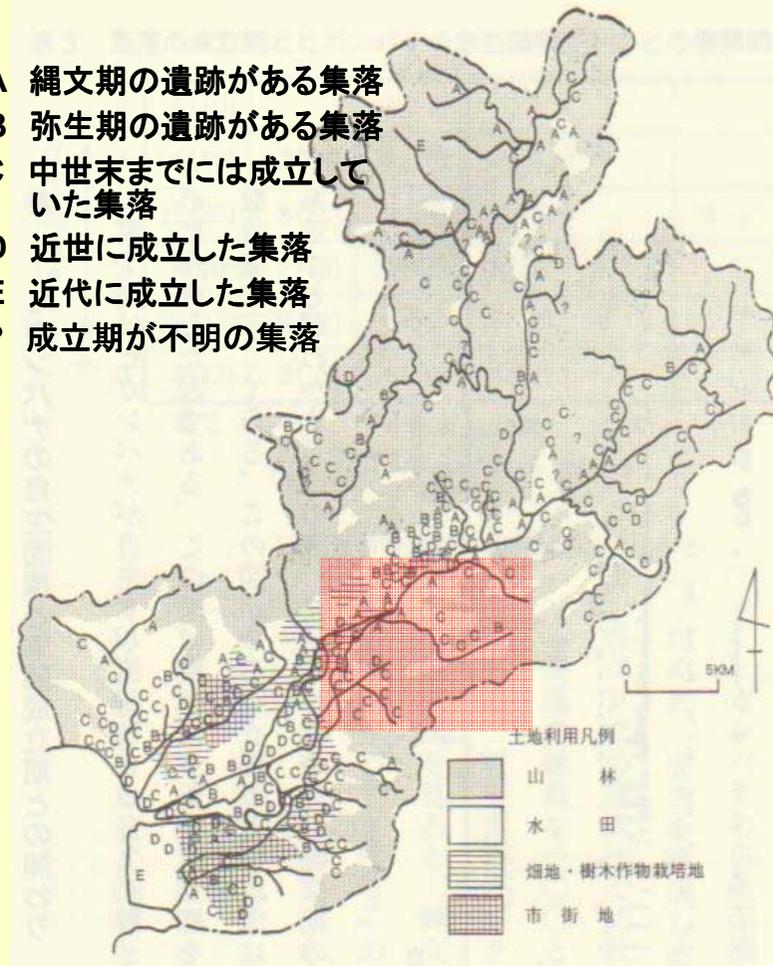
記号	集落の成立時代の区分	集落数	構成比(%)
A	縄文期の遺跡がある集落	61	19
B	弥生期の遺跡がある集落	39	12
C	中世末までには成立していた集落	168	54
D	近世に成立した集落	37	12
E	近代に成立した集落	2	1
?	成立期が不明の集落	7	2

- 0 自生地なし
- 1 自生面積 0~24㎡
- 2 自生面積 25~49㎡
- 3 自生面積 50~99㎡
- 4 自生面積 100~199㎡
- 5 自生面積 200㎡以上

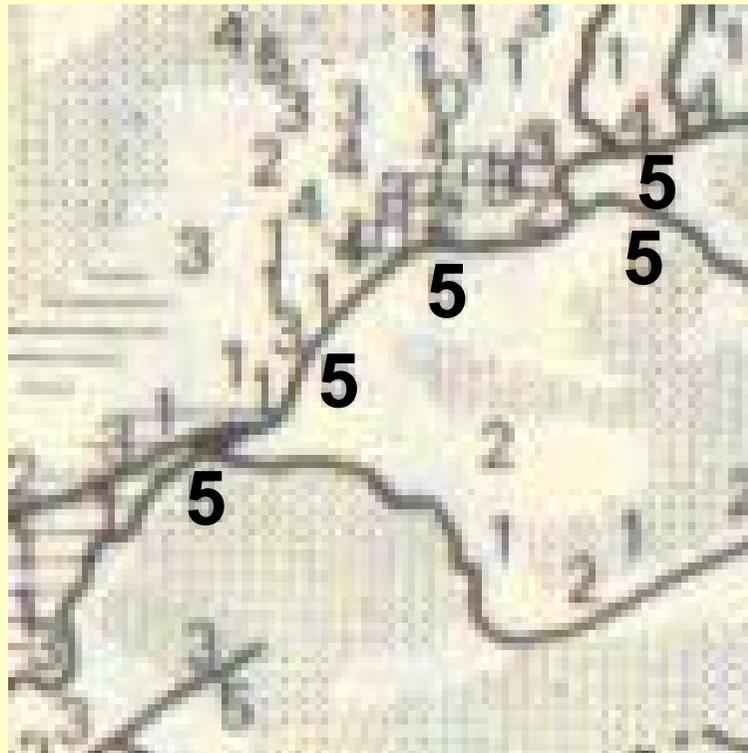


第5図 豊川流域におけるヒガンバナの自生面積分布

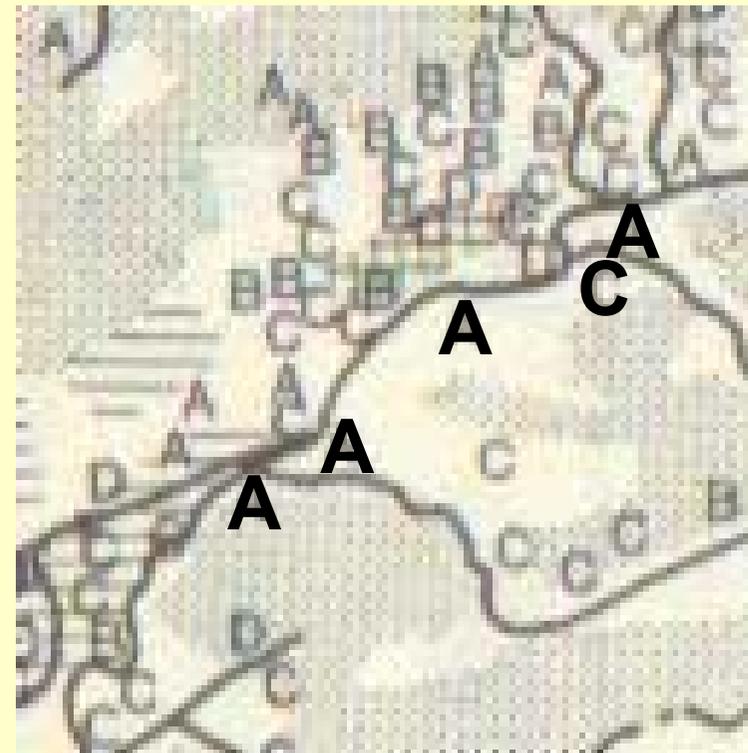
- A 縄文期の遺跡がある集落
- B 弥生期の遺跡がある集落
- C 中世末までには成立していた集落
- D 近世に成立した集落
- E 近代に成立した集落
- ? 成立期が不明の集落



第6図 豊川流域における成立期別集落分布



第7図 豊川流域におけるヒガンバナの自生面積分布の拡大図



第8図 豊川流域における成立期別集落分布の拡大図

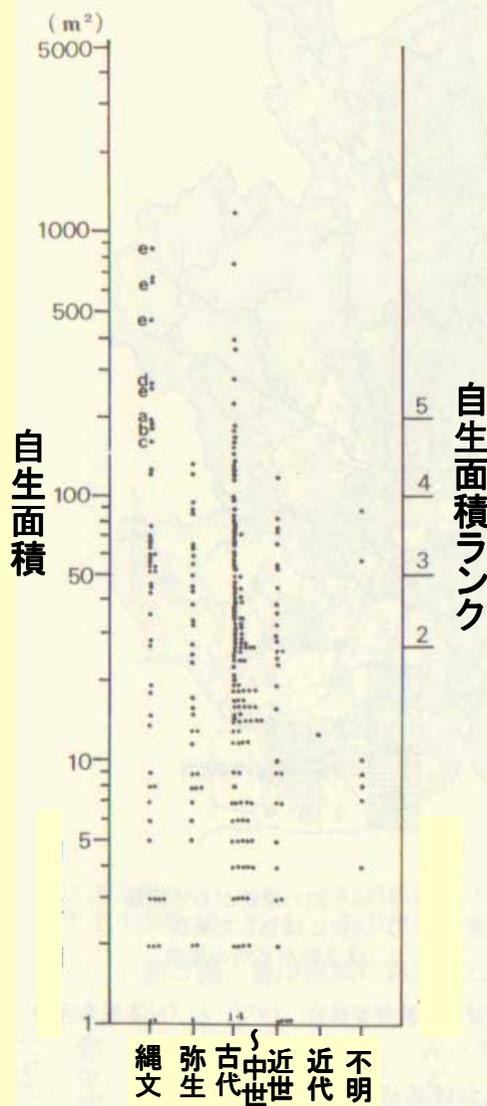
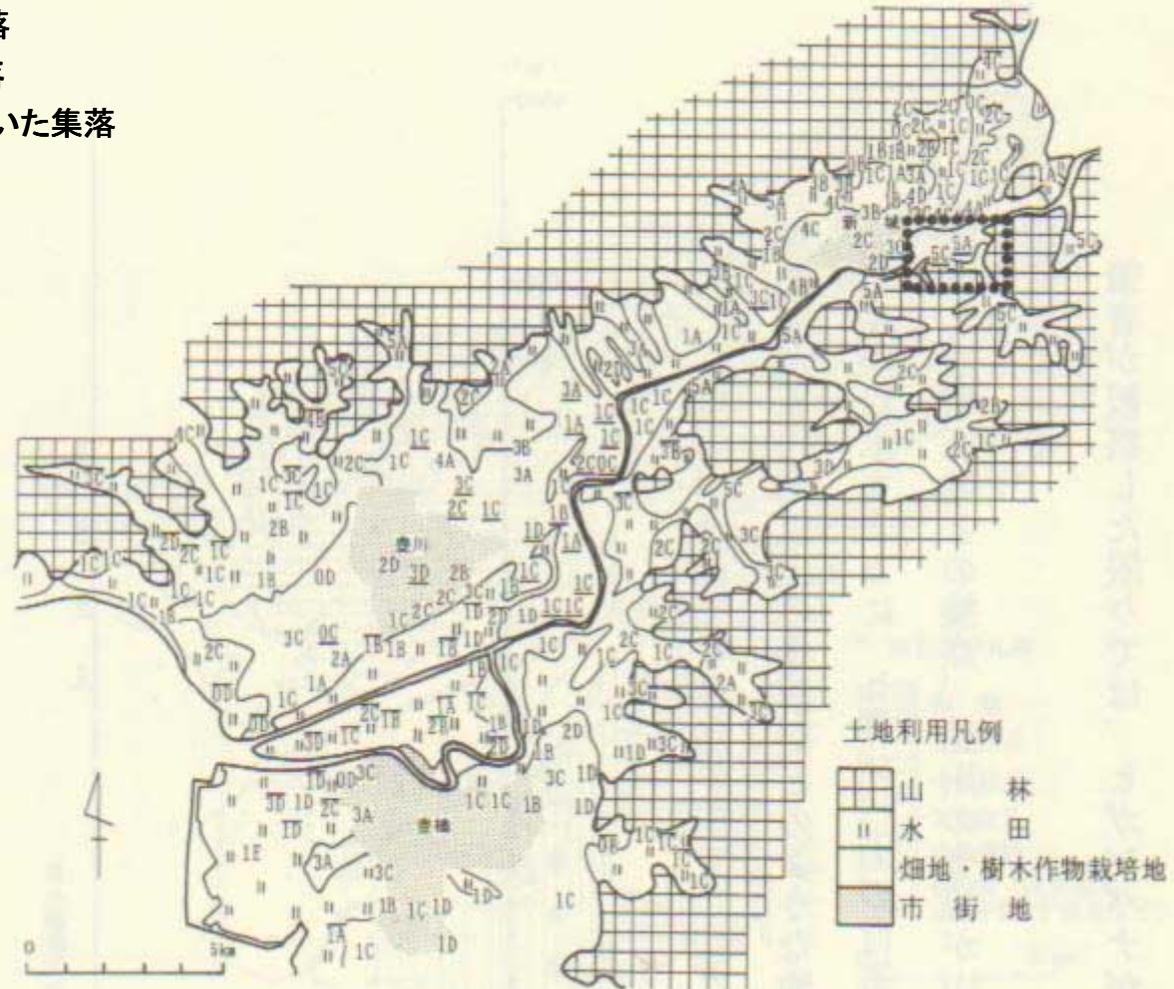


表3 集落の成立期とヒガンバナの自生面積ランクとの相関関係

5	6(10)		6(4)			
4	6(10)	2(5)	11(7)	1(3)		
3	15(25)	8(21)	24(14)	6(16)		2
2	6(10)	7(18)	35(21)	8(22)		
1	20(33)	20(51)	86(51)	18(49)	2	5
0	8(13)	2(5)	6(4)	4(11)		
	縄文	弥生	~中世末	近世	近代	不明
		古い	← 時代 →		新しい	

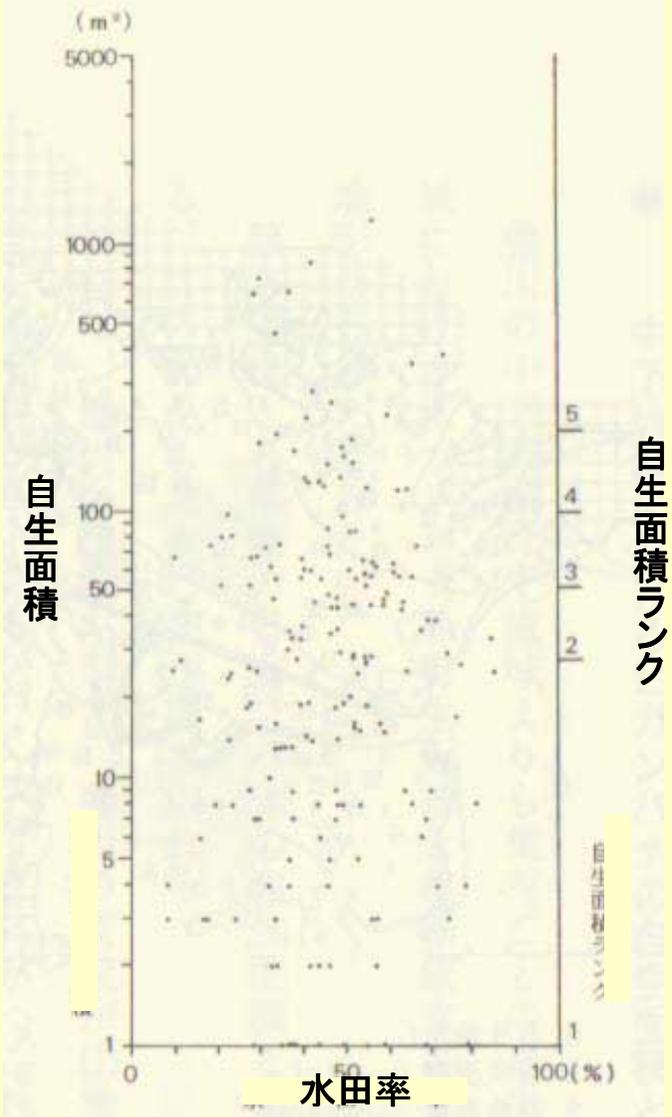
注. ()は各時期内の構成比を示す

- A 縄文期の遺跡がある集落
 - B 弥生期の遺跡がある集落
 - C 中世末までには成立していた集落
 - D 近世に成立した集落
 - E 近代に成立した集落
 - ? 成立期が不明の集落
-
- 0 自生地なし
 - 1 自生面積 0~24㎡
 - 2 自生面積 25~49㎡
 - 3 自生面積 50~99㎡
 - 4 自生面積 100~199㎡
 - 5 自生面積 200㎡以上



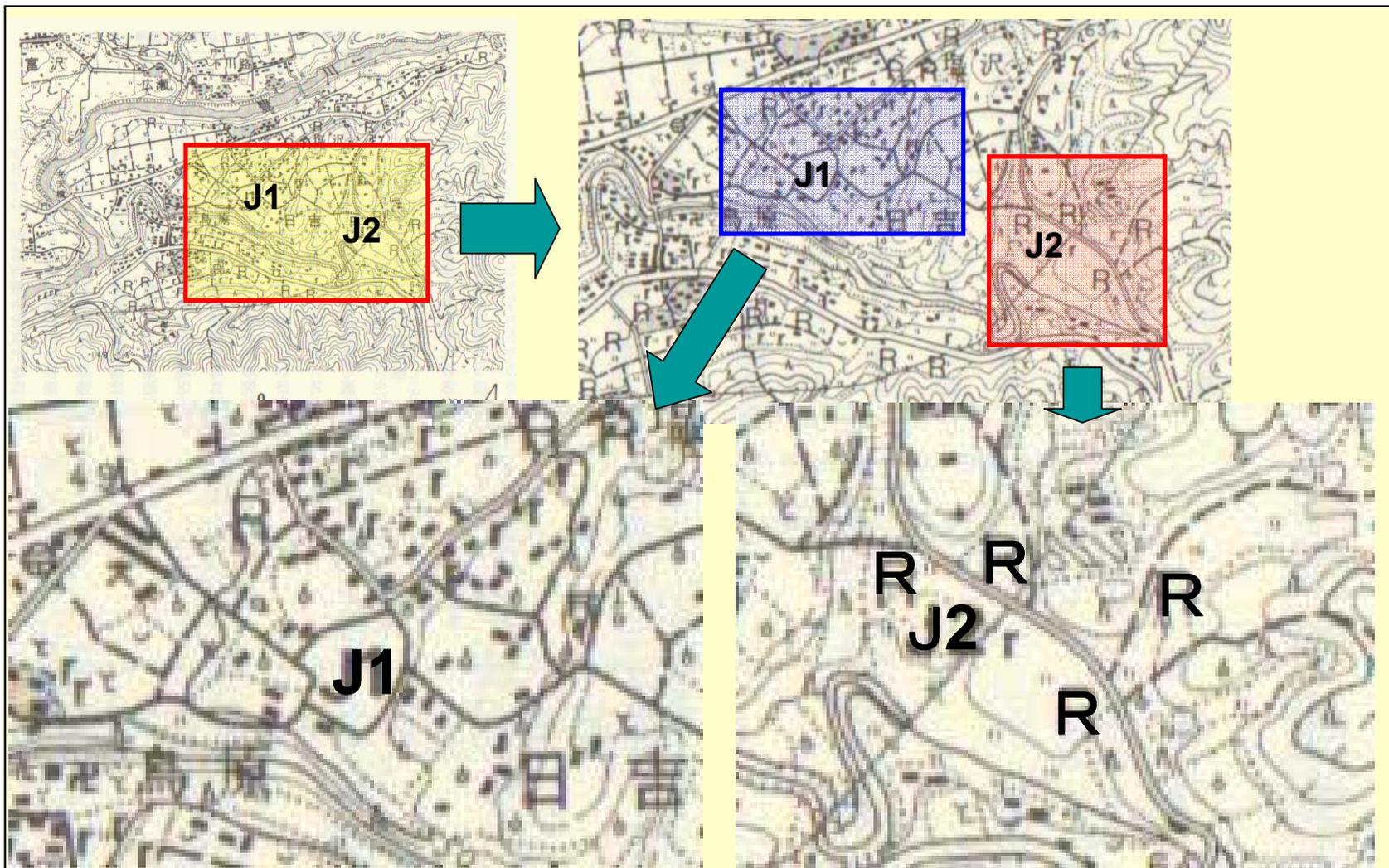
注) 自生地面積と成立期の記号の上に横線が引いてある集落は、水田率が50%以上の集落である。
 自生地面積と成立期の記号の下に横線が引いてある集落は、水田率が30%未満の集落である。
 図中右上の点線内は、第11図で示す範囲である。

第10図 豊川中下流域におけるヒガンバナの集落別自生面積と集落の成立期 15/24



注) 水田率は1960年の数値である。
 1970年農林業センサス集落カードによる。
 水田率の平均は47.6%(1960年)である。

第11図 集落の水田率とヒガンバナの自生面積との相関図 16/24



R ヒガンバナの自生面積約50m²
 r ヒガンバナの自生面積約10m²

J1 縄文後期の遺跡
 J2 縄文晩期~弥生期の遺跡

第12図 塩沢と鳥原のヒガンバナの自生地分布

表4 塩沢と鳥原のヒガンバナの地目別自生面積と構成比

地目	面積(m ²)	構成比(%)
水田	814	60
畑・樹園地	331	24
宅地	92	7
森林・荒地	131	10

注) 1960年の水田率(総耕地面積中の水田面積比)は29%。

表5 縄文期の遺跡のある集落の時期別集落数とヒガンバナの自生面積ランクとの関わり

時期区分	自生面積とランク						合計
	自生なし 0	0~24㎡ 1	25~49㎡ 2	50~99㎡ 3	100~199㎡ 4	200㎡以上 5	
早期	1	1		1	1		4
前期	1	1			1		3
中期	2	4	1				7
後期		5		4		1	10
晩期	1	5	1	9	1	4	21
記載なし	3	4	4	1	3	1	16
合計	8	20	6	15	6	6	61



- A 朝鮮半島の南部を経て九州に渡来した経路
- B 直接九州に渡来した経路
(ヒガンバナを構成要素を含む)
- C 南の島伝いに北上して九州に渡来した経路

第13図 稲作農耕の日本への渡来経路